

施策分類名	68 公園・緑地
施策の目的	■緑に囲まれた環境で、うるおいやゆとりをもって暮らせるまちにすること
施策分類の計画終了時の目指す姿	●市民の憩いの場となる公園・緑地が整備され、子どもからお年寄りまでが安心して時間を過ごし、市民の笑い声や笑顔があふれています。 ●市民が進んで公園の維持管理に参加しています。

No	成果指標	単位	基準値	2015調査	2016調査	2016目標値
94	留萌の自然が素晴らしいと思う市民の割合	%	62.6	69.4	70.2	80.0
95	公園の緑地、広場、子どもの遊び場があることに対する満足度	%	32.1	19.9	28.5	46.0

plan(P)

Do(D)

上記施策を推進するために貢献する事務事業

事務事業名	実施主体	事業費(総額)	事業費(一財)	一般人工	嘱託人工	臨時人工	これまでの改善経過(手段、事業費等)
都市計画行政統括事業	市	33千円	33千円	0.10人工			各種関係団体への負担金見直しに努めた。
公園管理統括事業	市	77千円	77千円	0.10人工			効率的な支出に努めた。
公園管理事業	市	64,427千円	60,702千円	0.96人工	0.42人工	2.09人工	「パートナー制度」の導入により、市民との協働による公園管理を行った。
公園機械更新事業	市	2千円	2千円	0.08人工			H27 乗用式芝刈機 1台、H28 乗用式芝刈機 1台
船場公園整備事業	市	247,882千円	7,782千円	0.80人工		0.08人工	部分供用による便益効果の早期出現や公共残土の活用等コスト縮減に努めている。また、船場公園通りを関連社会資本整備事業により道路事業と同率の補助事業として整備を図っている。
船場公園フェンス復旧工事	市	4,428千円	0千円	0.08人工			単年度事業のため設定になじまない

事業費計 316,849千円 68,596千円 人件費仮換算 21,638千円

※人件費については、H27職員人件費平均単価を用いて算出する。

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

地区公園(船場公園)の整備を進めており、これまでパークゴルフ場・ドックラン・ひょうたんの丘(築山)芝生広場・駐車場の供用をはかり、平成27年度に管理棟を含む公園工事は完成した。

また、JR留萌駅との協定により連絡通路を使用し市街地から直接公園へ出入り出来るよう利便性の向上も図っており公園利用者から好評を得ているが、街区公園遊具をはじめ、各公園施設の老朽化による撤去・閑散化などの影響もあり、公園・緑地に対する市民満足度は低下状態である。

小さな範囲を利用対象とする街区・近隣公園の遊具老朽撤去などによる閑散化が進んでおり、その影響が市民満足度の低下要因ではないかと考えられる。

維持管理費の減少に伴い、老朽化した遊具は撤去しているため遊具が無い公園が増加しており、子どもの遊び場として機能していない状況により満足度が低下していると考えられる。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

船場公園は平成22年度にメインの芝生広場を造成、平成23年度には駐車場の追加供用を図ったところであり、平成27年度に管理棟を含む公園工事は完成した。

このメイン芝生広場は留萌市最大のローンフィールドであり多様な利用が見込まれるとともにその外周園路も500メートルの計測園路として整備しておりジョギングやウォーキングへの利用ができ、公園の緑地・広場・子供の遊び場に対する満足度の向上に寄与すると考えられる。

また、「管理棟」完成までの間「無料開放」としているが、平成21年度から公園利用者協力金を導入し維持運営経費の間接的削減に努めているところである。

平成21年度より「パートナー制度」を導入し、原材料の支給等により、各町内会等の市民協働による草刈・清掃等の管理を行いコスト縮減と管理体制の強化に努めている。

平成24年度には、平成21年度より財政再建計画に基づき一時閉鎖をしていた街区公園のトイレを開放し、公園の利便性の向上と利用促進を図った。

財政健全化計画による公園管理費の減少により、維持管理水準は低下しており、老朽化した遊具は更新されていない。また、有料公園における施設も老朽化しており、応急措置で対応している状況である。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

船場公園は平成27年度に完成し、平成28年度より全面供用開始したが、今後の利活用が課題である。また、関連事業として、道路事業(船場公園通り)の平成28年度の完成に向けて着実な整備を進める。

「パートナー制度」は、地域の高齢化により減少することもあるが、さらにPRして参加団体の増加に努める。また、船場公園の「施設利用者協力金」についても広く周知し、維持管理費の充実に図って行きたい。

公園施設長寿命化計画に基づき、基幹公園、主要街区公園の遊具施設等の更新計画をたて、国費補助を受けながら、老朽化施設の更新等を行っていく。

plan(P)

$$D_o(D)$$

事業費計	1,250千円	1,250千円	人件費仮換算	389千円
------	---------	---------	--------	-------

- 179 -

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

森林浴による病気の予防や健康増進に役立てようとする一般市民が増えている。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

施設の管理については、最小限の経費により効率的な管理が求められる。

平成24年5月に、留萌振興局森林室、同環境生活課、同林務課、留萌市農林水産課、るもい森林サポーターズクラブにより『るもっぺ憩いの森管理・運営委員会』を設置し、情報交換及び調整を行いながら、効率的に憩いの森の適正管理を行っている。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

北海道、市、サポーターズクラブ等、関係機関により憩いの森管理運営委員会を設置し、適切な管理や利活用方策の検討など、情報共有に努めており、引き続き、森林の持つ多面的な機能の維持、普及啓発に向け事業等を進めていくことが求められるが、管理運営に必要な施設・設備(特に給水設備)が老朽化しているため、修繕等の対応が必要である。

plan(P)

$$D_o(D)$$

事務事業名

[illegible]

※人件費については、H27職員人件費平均単価を用いて算出する。

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

町内会や企業、各団体等による街区公園や道路植樹樹の緑化などの『ボランティアによる植栽』が行われていることや、個人の庭等で花の植栽を楽しむところが増えて来ていることから、市民の花に対する取り組みの広がりという面では当初の目標を達成できていると考える。
平成24年度より、留萌市フラワーマスター連絡協議会と合同で先進地視察研修を行い、『花によるまちづくり』を推進するための視野を広げてきた。
公園や道路の植樹帯などの環境美化活動に対し、町内会や各種団体がパートナーとなって管理する『環境美化パートナー制度』により、市民の環境美化に対する意識が図られて来ていると感じる。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

引き続き、町内会や市民の環境美化意識の高揚を図る中から『環境美化パートナー制度』などによる市民協働を推進していくことが必要と考える。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

地域の環境美化をさらに推進させるため、『環境美化パートナー制度』の普及をさらに促がすと同時に、『優良事例(緑化状況写真)』をホームページ等で紹介するなど、「緑化意識」を醸成する様な働きかけを続けていく。

施策分類名	70 留萌港
施策の目的	■市民に愛され、親しまれる港があるまちにすること ■道北圏域を含めた物流と地域経済が活発なまちにすること。
施策分類の計画終了時の目指す姿	●港の老朽化施設の改修が進み、安全で効率的に港が利用されています。 ●交通基盤の整備が進み、陸・海・空のネットワークにより、留萌港の経済圏である留萌・上川・空知地域を中心とした物流が活発になっています。 ●港の持つ魅力や親水性に配慮したイベント等が実施されるなど、市民の港への関心が高まり、親しまれています。

No	成果指標	単位	基準値	2015調査	2016調査	2016目標値
96	留萌港取扱貨物量	万トン	143.0	145.3	127.5	113.3→
97	留萌港に魅力や親しみを感じる市民の割合	%	21.6	18.6	22.8	60.0
98	港を生かしたまちづくりに対する満足度	%	10.7	16.0	21.8	19.0

plan(P)

Do(D)

上記施策を推進するために貢献する事務事業

事務事業名	実施主体	事業費(総額)	事業費(一財)	一般人工	嘱託人工	臨時人工	これまでの改善経過(手段、事業費等)
港湾行政統括事業	市	1,338千円	1,090千円	0.2人工			
港湾管理事業	市	22,357千円	7,766千円	0.5人工			
港湾事業特別会計繰出金	市	75,625千円	75,625千円	0.1人工			
直轄港湾整備事業管理者負担金	国	24,274千円	74千円	0.1人工			
三泊地区緑地整備事業	市	15,757千円	78千円	0.2人工			
留萌港保安対策事業	市	7,461千円	0千円	0.5人工			
港湾環境整備事業	市	1,156千円	1,156千円	0.5人工			
留萌港貿易可能性調査事業	市	24千円	24千円	0.1人工			
三泊地区用地交換測量委託料	市	810千円	810千円	0.1人工			
留萌港事業継続計画策定事業	市	4,471千円	4,471千円	0.2人工			

事業費計 153,273千円 91,094千円 人件費仮換算 19,429千円

※人件費については、H27職員人件費平均単価を用いて算出する。

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

留萌港の経済圏域の人口減少や公共事業減少により留萌港の太宗貨物である石油製品やセメント等の取扱いが減少した反面、道産材の国内外での需要増加にともない、原木の取扱いが増加した。
港の施設を一時的に開放してのイベントなどが年に数回行われており、市民等が港に足を運ぶ機会はあるが、港湾は地域や背後圏域の経済活動を第一に物流機能を優先した施設整備となっているため、市民等が気軽に港に接する機会は少ない。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

留萌港の利用について積極的にポートセールスを実施するとともに、新たな取扱貨物の可能性についての情報収集を進める。
施設の老朽化対策等、維持管理計画に基づき施設の延命化を図りながら安全で効率的な港づくりを進めていくとともに、市民が親しみを抱くような港づくりを同時に進めていく必要がある。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

「留萌港貨物取扱激減品目緊急集荷対策」の実施継続による利用促進のほか、関係機関との連携により留萌港利用の可能性について調査研究を図っていく。
維持管理計画に基づいた計画的な施設点検等の実施により、既存ストックの有効活用を図るとともに、安全で効率的な港としての整備や維持・管理を実施していく。

plan(P)

$$D_o(D)$$

事業費計	100千円	100千円	人件費仮換算	389千円
------	-------	-------	--------	-------

- 185 -

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

海上輸送形態が多様化し、長期の景気低迷や、航空・海運業界の規制緩和の影響もあり、フェリー就航に特化した内容の事業では留萌港の活用による圏域全体の活性化を図ることは非常に厳しいにあるため、既存の港の設備で受け入れ可能な客船寄港や港湾利活用の推進にシフトしている。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

海運及び陸運を活発化させるための製造業等の産業育成・誘致や、物流全体の効率化を目指した取り組みとして物流基地の整備を行うとともに、また港・空・陸のネットワーク形成による地域経済活性化や観光振興を目指す手法を検証していく。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

平成23年度、団体負担金の見直し(100千円→50千円)を行った。

平成20年8月、留萌市と圏域各地の官民が経済的連携を図り、圏域の企業・団体等の留萌港利活用に向けた環境を創出し、物流・観光等の連携を図り相互の地域の活性化に繋がる活動を展開する組織を目指した、「留萌港フェリー就航促進期成会」と「留萌港フェリー就航促進道北連合会」は統合により、名称を「留萌港利活用推進連絡協議会」とした。

平成26年度に留萌港からトドマツの輸出が開始したが、さらなる海運及び陸運双方の物流需要の増大や、コンテナ・ROROなどの船舶輸送による航路開設に向け道央圏域との経済・観光等の連携を目指しており、圏域の企業・団体等の留萌港利活用に向けた環境を創出し、本市と圏域各地の官民が経済的連携を図るとともに、地域経済活性化へと繋がる取り組みを実施していく。